

国語科（国語総合）学習指導案

日 時 平成21年11月6日（金）5限目
学 級 美術科 1年8組
(男子5名・女子35名, 計40名)
場 所 松陽高校1年8組教室
授業者 教諭 矢野 梨佳

1 単元名

評論（二）『しきり』の文化論（柏木 博 著）

2 研究テーマとの関連

国語科の研究テーマ「根拠を示し、説得力のある意見を述べるができるようになる。」に関して、本年度は「読むこと」に重点を置きながら指導をおこなっている。読みの深まりがものの見方・考え方の深まりや拡がりに通じるという観点から、全体の研究テーマ「よりよく生きる生徒の育成」に繋がるものだと考えている。

本単元は人間関係の境界線としての「しきり」について書かれた評論文である。人間は所有する言葉やものによって自らの世界を構築し、他の誰でもない「わたし」というものを認識するのであり、それは一般的に指摘されている近代哲学的な思考よりも大変原始的な感覚なのだ、と筆者は論じている。

本単元は、文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることが目標として設定している。それを達成するための手立てとして、本時では生徒たちがそれぞれに実感を持ちながら筆者の主張を受けとめ、それに対する自らの意見を持つという主体的な学習過程を取り入れた。筆者の論理に添って自らの経験や考えを表現することによって、筆者の主張をただ受動的に理解するのではなく、話題を自分の日常的な体験に引き寄せながら積極的に読み取る姿勢を身につけさせたい。さらに、筆者の視点に立ち、その論理展開を追体験することで、自分の経験や考えを順序立てながら表現する方法を身につけるとともに、この文章を通して筆者が伝えようとするところを一層的に理解し得るものと考えている。

また、筆者の主張はこの世界を生きる全ての人間に関係するものであり、もちろん生徒たち自身も例外ではない。よって本単元の学習を通して、生徒たちが社会生活を客観的に捉え直し、見つめる良い機会をつくりたい。自分の行為や思考に存在する意味に気づくことで、多感な時期の真っ直中にある生徒たちに、ものの見方や考え方をより豊かなものにしようとする一層の意欲を培わせ得るような学習活動を展開していきたいと考える。

3 生徒の実態

今回授業を行う1年8組は美術科に在籍しており、授業者が副担任をしている学級である。全体的に落ち着いた雰囲気を持っている学級であり、授業への取り組みも普段から真面目である。日頃から読書を好む生徒が多く、言語文化への興味・関心も高い。また、専門科目としている美術分野によって培われた、一つのものをじっと見つめ、よく観察し、自分の世界観でもってそれを表現しようとする意欲を備えている。ただし、学級の中で国語に対する興味・関心や苦手意識に関してやや個人差が大

きく、授業をおこなっていく際の生徒の反応にもそれが表れることがある。よって、よく個別的な配慮をしながら全体へのアプローチを行うよう心がけ、指導していきたい。

また、生徒たちはこれまでに「自然と人間の関係を通して考える」（内山 節著）を使って高校における評論読解の学習を一度経験している。その際、論理展開のパターンや筆者の主張を立証する具体例の役割、接続詞の働き等を学んだ。しかし、筆者の主張に即して自分自身の経験や思考を表現するという活動を行うのは高校の評論学習において初めてである。単に筆者の主張を受動的に理解するのではなく、自分自身と照らし合わせながら言葉で表現することによって、一層読みが深まるのだということを実感させたいと考える。

また、論理展開に即した読解方法や具体例・接続詞の働きの理解と活用に関して、さらに定着の度合いを高める必要があると思われる。今回扱う『『しきり』の文化論』（柏木 博著）は四つの意味段落から成り、そのうち第一段落が筆者の疑問提示、後の三段落がそれに対する解答という形で展開される明快な論理である。また、既習の説明文や評論文と比較すると文章の内容に関してかなり抽象度が高くなっているものの、筆者は適宜具体例を巧みに交じえながら論理を展開している。よって高校段階の本格的な評論読解を学び始めた時期にある生徒たちに、本単元の学習を通して、文章の内容を叙述に即して的確に読み取るという基本的な読みの力を育成するとともに、具体例の働きを意識しながら筆者の主張を的確に掴もうとする態度を定着させたい。

4 単元の指導目標

- 1 筆者の主張を基に自分自身の行為や思考に存在する意味を見つめ直し、社会生活におけるものの見方や考え方をより豊かなものにしようとする意欲を持てるようにする。【関心・意欲・態度】
- 2 筆者の抽象的な主張の内容を叙述に即して的確に読みとることができるようにする。【読む能力】
- 3 論理展開のパターンや具体例の役割、接続語の働き等を手がかりとした筆者の主張の捉え方を理解できるようにする。【知識・理解】

5 単元の評価規準

- 1 筆者の主張を基に自分自身を見つめ直し、ものの見方や考え方をより豊かなものにしようとしている。【関心・意欲・態度】
- 2 文章中における論理展開や具体例の用いられ方、接続語の働き等を踏まえ、筆者の主張を叙述に即して的確に読み取っている。【読む能力】
- 3 論理展開のパターンや具体例の役割、接続語の働きを理解している。【知識・理解】

6 指導と評価の計画

時間	学習内容	学習の流れ	評価項目	評価方法
1	文章の全体像をつかむ。	既習の論理展開のパターンを確認した上で文章の音読を行い、難解な語句の意味等を知る。さらに文章中における「しきり」がどのような意味で使われてい	論理展開のパターンや語句の意味等を踏まえ、文章の大意を理解している。【知識・理解】	発表、ワークシート

		るのかを理解する。		
2	第一段落の内容を理解する。	第一段落における筆者の問題提起を理解し、以降の段落読解に役立てる。	筆者の問題提起の内容を理解している。また、後の論理展開や筆者の意図を予想し、主体的に思考をめぐらせながら読んでいる。【読む能力】	発表
3	第二段落の内容を理解する。	第二段落において述べられる、言葉（名前）による「しきり」について理解する。	筆者の問題提起に対する一つ目の答えを読み取っている。さらに、筆者の意見と具体例とを区別し、各具体例の役割を意識しながら読んでいる。【読む能力】	発表
4	第三段落の内容を理解する。	第三段落において述べられる、ものによる「しきり」について理解する。	具体例を活用しながら、筆者の問題提起に対する二つ目の答えを正確に読み取っている。また、第二段落との構成上における相同的な関係に気づいている。【読む能力】	発表
5	第四段落の内容を理解する。	第四段落の内容や働きを理解する。文章全体の論理展開（問題提起→答え）を再確認する。	文章における結論部分としての第四段落の働きを理解し、さらに全体の論理展開を理解している。【読む能力】	発表、
6	筆者の主張する内容を自分自身の経験等に関連づけながら捉え直す。	筆者の論理展開に沿って、自分の無くてはならない大切に行っている「もの」が「わたし」の生活や人生で担っている役割を具体的に考えて書く。	筆者の主張を踏まえて自分自身を見つめ直し、ものの見方や考え方をより豊かにしようとしている。【関心・意欲・態度】 筆者の論理展開に即して自分自身のことを順序立てて書いている。【読む能力】	発表、 ワークシート
7	前時に書いたワークシートをもとに意見交流を行い、筆者の主張をよりの確に読み取る。	互いに書いたワークシートをもとにしてスピーチを行うことで筆者の主張をよりの確に理解する。さらに、理解したことを踏まえて、筆者の主張に対する自分なりの意見をまとめる。	積極的にスピーチに取り組み、自分や友人の「もの」に対する見方や考え方を豊かにしようとしている。【関心・意欲・態度】 互いにスピーチを行う中で、筆者の主張の内容を自分や友人のことに関連づけながら具体的に考え、的確	発表、 ワークシート

に読み取っている。【読む能力】

7 本時の実際

(1) 本時の学習目標

意見交流をもとにして筆者の主張をよりの確に理解し、自分なりの意見を持つことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・ 積極的に互いにスピーチし合い、自分や友人の「もの」に対する見方や考え方を豊かにしようとしている。【関心・意欲・態度】
- ・ 互いの意見交流を通して筆者の主張の内容を自分や友人のことと関連づけながら具体的に考え、的確に読み取っている。【読む能力】
- ・ 文章中における筆者の主張の内容を理解している。【知識・理解】

(3) 本時の展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点と評価方法
導入	5分	1 学習目標を知り、本時の学習の見通しを持つ。 意見交流をもとにして筆者の主張をよりの確に理解し、自分なりの意見を持つ。	○ 本時の学習について生徒たちに目的意識を喚起する。 ◎ 授業に対して目的意識を持ち、主体的に取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】（発表）
	25分	2 グループに分かれ、互いに書いた文章をもとにしてスピーチを行う。また、互いのスピーチについて感想や気づいた点等を話し合う。	○ 聴き手となる生徒には互いのスピーチの内容をワークシートにメモさせることにより、的確に相手の考えを受けとめるよう指導する。 ○ 互いのスピーチについての感想や気づいた点等を付箋紙に書かせ、話し手に即座に還元することで、筆者の主張に対する理解を深められるようにする。 ◎ 積極的に互いにスピーチし合い、自分や友人の「もの」に対する見方や考え方を豊かにしようとしている。【関心・意欲・態度】（グループ活動の様子）
展開	5分	3 指名された生徒はクラス全体に対してスピーチ内容やグループ活動で話し合ったこと等について発表する。	○ 共通理解を図ることで、後の筆者の主張に対する自分なりの意見を生徒が持ちやすくなるよう工夫する。
	2分	4 文章中における筆者の主張内容を確認する。	○ 再度筆者の主張内容を確認し、自分や友人のスピーチ内容との整合性を確認するよう指導する。

	5分	5 筆者の主張に対する自分の意見をまとめる。	◎ 文章中における筆者の主張の内容を理解している。【知識・理解】(発表) ○ 筆者の論理展開に即した形で意見を書かせる。
	5分	6 指名された生徒は書いた意見を発表する。	◎ 互いの意見交流を通して、筆者の主張の内容を自分や友人のことと関連づけながら具体的に考え、的確に読み取っている。【読む能力】(ワークシート) ○ 自分や友人のことと関連づけながら書いたり読んだりするという活動を通して文章の読みが深まることを実感させられるような形でまとめを行う。
終末	3分	7 本時の活動を振り返り,自己評価を行う。	○ 今後の学習活動に対する課題や意欲を促す。 ◎ 本時の活動を客観的に捉え、次の学習活動に役立てようとしている。【関心・意欲・態度】(自己評価表)